

令和7年度第2回 監査委員会監査報告書

－杏林大学医学部附属病院－

杏林大学医学部附属病院監査委員会（以下、「監査委員会」という。）における監査結果を以下のとおり報告する。

1. 監査の概要

杏林大学に設置する杏林大学医学部附属病院監査委員会において、管理者等からの報告に基づき、医療安全管理責任者、医療安全管理部、リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務を監査した。以下のとおり開催した監査委員会において、担当者等から資料の提出及び報告を受け、説明を求めた。

監査日時 令和8年2月2日（月）午後6時30分～午後8時05分

場 所 杏林大学医学部附属病院会議室B（第2病棟2階）

2. 前回指摘事項の改善状況

(1) インシデントレポートにおける、医師の報告促進に向けた対策について

1月をインシデントレポート報告推進月間として、職員一人一件の報告を呼びかける取り組みを実施。その結果、通常月より報告件数が増加。来年度以降の取り組みに反映させると説明。

委員は、さらなる報告件数増加のため啓発活動を継続するとともに、報告しやすい環境づくりの重要性を述べた。

(2) 鎮静管理（小児）の説明書について

小児医療では「適用外使用」薬剤が多く、実質的に適用外使用が一般的であるため、特定の薬を強調する書き方では患者に不安を与える可能性がある。より柔軟な説明文書作成に向けて引き続き検討する。

(3) ACPの取り組みについて

高齢化に伴い、患者が人生の最終段階をどのように迎えるかを考える重要性が増していることから、職員全体への周知、講演会の開催、地域との連携など、多段階での取り組みを進めている。今年度は講演会を4回開催し、参加者は増加しているものの、医師の参加が少ない点が課題。

また、ACP質問票については、文言・順序・書きやすさなどを見直し、改訂案を作成中。電子カルテには付箋や掲示板機能を使い、ACP情報が見える化される運用を行っていると説明。

委員からは、ACP（人生会議）の説明文が患者にとって硬い印象を与え不安に繋がるため、患者に寄り添った内容に変更した方が良いのではないかと述べた。また、質問票の項目は似通った内容が多いことから整理が必要と述べた。

説明文や質問事項については、ACP推進チームと引き続き検討する。

3. 監査項目

医療安全への取り組みについて

- ・当院における医療事故対応への取り組み
- ・医療安全推進週間としての啓発活動

4. 監査結果

監査委員会において前回指摘事項に対する改善状況及び医療安全管理責任者、医療安全管理部、リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務を監査した結果、医療に係る安全管理が適切に実施されていることを確認した。

<指摘事項>

・インシデントレポート提出促進

インシデントレポートの提出促進の取り組みは非常に有意義であり、今後も多くの職員が積極的にインシデントレポートを提出できるよう、周知活動を継続していただきたい。

・医療安全推進週間としての啓発活動

医療安全推進週間では、医療安全ラウンド、鎮静管理ハンズオンセミナー、チーム紹介講演、お薬相談など多様な活動が実施され、いずれも良好な反応が得られた。特にお薬相談は、処方意図や副作用、サブリ併用など患者の不安解消に直結する取り組みとして評価され、委員からは病院全体の医療安全に対する姿勢として、これらの啓発活動を外部に積極的に発信することを期待する。

・説明書・ACP質問票の表現の見直し

鎮静管理の説明書やACP質問票については、患者の不安を招かないよう、引き続き表現の見直し、患者に寄り添った情報提供をしていただきたい。

以上

杏林大学医学部附属病院監査委員会

委員長 宇井 義典
委員 渡邊 卓
白戸 謙一
橋本雄太郎